実践のまとめ（第３学年　英語科）

加茂市立加茂中学校　教諭　田中　修平

１　研究テーマ

『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』を働かせ、自分の考えや気持ちを伝えることができる生徒の育成

２　研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（外国語）では、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することを目指した外国語科の目標の達成のためには、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが重要であると示されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」とある。

当クラスの生徒は、与えられた課題に対して熱心に、協働的に取り組むことができる。また、自分の考えを書く課題では、積極的に英語で意見を書こうとする生徒が多い。一方で、その書かれた英文が読み手に十分に伝わるかという正確さの面においては、力が十分ではない。また、書かれた内容については、自分の気持ちや考えを伝えるだけになり、読み手を意識した内容になっているかという点においても課題が残る。原因として、日々の授業の中で、目的・場面・状況を意識した言語活動がなされていないことが考えられる。

そこで、具体的な場面設定を行い、生徒が相手の思いを受け止め、自分の考えを整理し、発信しようとする。そのことで、より豊かな内容になったり、「相手に自分の考えを伝えたい」という思いが、英作文の正確さも高めたりすることにつながるのではないかと考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

①　相手の思いを受け止めて、自分の考えを伝えられる目的・場面・状況の設定

前述の通り、当クラスの生徒は、自分の気持ちや考えを積極的に伝えようとする。一方で、相手の思いを考えず、読み手や聞き手を意識した内容になっていないことがある。そこで、具体的な目的・状況・場面を設定した言語活動を行う。

具体的には、当校が力を入れている「自分の住んでいる町をＰＲする」という生徒会活動と関連したゴールを設定する。

②　ＩＣＴを取り入れた協働学習

当クラスの生徒の長所として、男女関わらず協働的に活動できる点が挙げられる。協働学習を取り入れることで、クラス全員の生徒が課題を達成できることを目指したい。具体的には、トピックを変えた言語活動をグループで行い、ゴールの英作文を個で書くことのハードルを下げられるようにする。「漆塗り型」の言語活動を通して、最後は個人で英作文を書けるような手立てを取りたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

パフォーマンステスト（書くこと）の中で、与えられた課題に対して、自分の考えや気持ちを英語で書くことができる。

３　単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson ５ I Have a Dream（New Crown ３　三省堂）

(2) 単元（題材）の目標

・加茂中学校を中心とした自分たちの身近にある地域の魅力を知ってもらうために、「あなたのお気に入り」についての加茂市の紹介文を英語で書くことができる。（書くこと）

・「加茂中学校を中心とした自分たちの身近にある地域の魅力を知ってもらうために、「あなたのお気に入り」についての加茂市を英語で紹介することができる。（話すこと［発表］）

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ・目的格の関係代名詞that、whichを用いた文構造を理解している。 ・後置修飾（名詞を修飾する文）を用いた文構造を理解している。 【技能】 ・目的格の関係代名詞that、whichや後置修飾（名詞を修飾する文）を用いた文を活用して、それらを含む文を正確に書いて伝えたり、即興で話したりする技能を身に付けている。	・加茂市のことを知ってもらうために、「自分のお気に入り」について情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、自分の考えを書いている。 ・加茂市のことを知ってもらうために、「自分のお気に入り」について情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、自分の考えを即興で話している。	・加茂市のことを知ってもらうために、「自分のお気に入り」について情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、自分の考えを書こうとしている。 ・加茂市のことを知ってもらうために、「自分のお気に入り」について情報を整理し、簡単な語句や文を用いて、自分の考えを即興で話そうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全14時間、本時５／14時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 （４）	【文法の学習】 ・目的格の関係代名詞 that、whichの学習 ・後置修飾（名詞を修飾する文）の学習	◎お気に入りの場所について説明する。 ◎お気に入りの人について説明する。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは確実に行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
2 （２）	【加茂市の紹介】 **・お気に入りの場所について紹介（本時）** ・お気に入りの食べ物について紹介	◎加茂市の「あなたのお気に入り」について紹介しよう。	
3 （７）	【教科書読解】 ・Get Part 1本文読解 ・Get Part 2本文読解	◎アメリカの黒人差別の歴史についての文章を読み、キング牧師の生涯に	

	・Use Readの読解	ついてその概要を表にまとめる。	
後日 （１）	・パフォーマンステスト -ライティング -スピーキング		思考・判断・表現 ・テーマに合った英文を適切に書くことができる。 【定期テスト】 ・テーマに合った英文を即興で話すことができる。 【動画の撮影】

４　単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

本単元では、最終ゴールに「ＰＲ動画を見た人に、加茂市のことをより知ってもらうために「あなたのお気に入りについて紹介しよう」という「書くこと」と「話すこと[発表]」のパフォーマンス課題を設定した。生徒会で行っている地域貢献活動の一環である「中学生クリエイターズフェス」へ参加することと関連させた課題である。「中学生の目線で地域の魅力を伝える」という目的・場面・状況を明確に設定することで、生徒たちが英語で伝える必然性と意欲を喚起したい。

(2) 生徒の実態

意欲的に課題に取り組む生徒が多い。また、男女の隔たりがなく協働的に活動することができる。「聞くこと」、「書くこと」においては全国比を上回っているが、「話すこと」、「読むこと」においては全国比を下回っている。また、学力差が大きいクラスで、英検準２級を取得した生徒がいる一方で、英単語を読むこともままならない生徒もいる。

先にも述べたように、「書くこと」についてはある程度は適切な表現を使って書くことができるが、相手を意識した内容で書く力には課題が残る。本単元では、読み手や聞き手がどんな情報を求めているのかを明確することで、意欲的に英文を書こうとする生徒たちの良さを引き出せるようにしたい。また、協働学習を通して、英作文の型や便利な表現などを全員が理解し、グループで学んだことを個人の学びに還元できるようにしたい。

５　本時の展開

(1) ねらい

「自分のお気に入りの場所」についてグループで協力して英文を書くことができる。

(2) 展開の構想

①今まで生徒会活動で取り組んできたことを例に挙げながら、今回は加茂市をＰＲする企画に応募するということを伝える。そしてその後、ホームページを見せ、どのようなことを動画に含めば良いのかを確認する。

②グループでのマッピングやライティングの場面でタブレットを使い、お気に入りの場所について話し合い、１つ取り上げ、英作文をする。マッピングを作成した後、それを参考に、協働ライティングを行う。授業の終末では、テーマに合った内容になっているかという内容面、また十分伝わる内容か、紹介文を書くのに便利な表現はあるかという言語面についてフィードバックを行う。

(3) 展開

時間 (分)	○学習活動	○教師の働き掛け	□評価　○支援 ◇留意点
Warm-Up (10)	○ペアで加茂市の場所について英語の説明	○説明した生徒からどう英語で説明したかを引き出し、板書する。	
導入 (5)	○目的・場面・状況の提示 ◎課題の提示 加茂市のお気に入りの場所を紹介しよう	○投稿する動画のテーマを確認する。	
展開 (30)	○お気に入りの場所のマッピング作成（10） ・班ごとにGoogle Jamboardでお気に入りの場所についてマッピングを行う。 ・マッピングしたものの中から実際に英文で書く項目を選ぶ。	○その場所について思いつくことをなるべく多く書くよう伝える。 ・内容の羅列ではなく、深めるマッピングを作る。	
	○個人でのライティング（7） ・書いたマッピングをもとに、ワークシートに英作文を個人で書く。	○文が書けない生徒をサポートする。 ・単語・語句レベル -言い換え ・文レベル -語順	○黒板にマグネットで語順を示す。
	○協働でのライティング（13） ・Google ドキュメントの共同編集の機能を用いて、個人で書いた英作文を使い、協働して良い英作文になるよう書き直す。	○文が書けない班をサポートする。	◇【Step 1】読み手を意識した内容を意識させる。 ◇【Step 2】正しく伝わるよう正確さを意識させる。
終末 (5)	○教師のフィードバックを聞く。	○電子黒板に各班の作文を映し、内容面、言語面のフィードバックを行う。	□テーマに合った英作文が書けている。

(4) 評価（本時は記録に残す評価は行わない。）

・テーマに合った英作文が書けている【思考・判断・表現　書くこと】

6　実践を振り返って

(1) 授業の実際

① モデル文とマッピング例の提示

まず、与えられたトピック「自分の町のお気に入り」に対してどのようなことを書けば良いのか、教師が自分の住む町のお気に入りについて、写真を見せながら紹介した。その後、紹介に使ったマッピングや話した英文を見せ、生徒たちが自分のことについて書くための足場掛けとした（図１）。

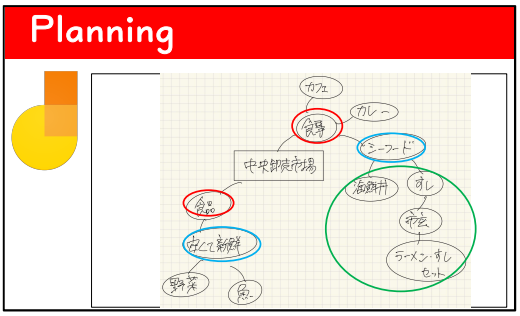

図１　教師が作成したマッピング例

② グループでのプランニング

「Google Jamboard」を使い、グループで１つの場所についてマッピングを作る活動を行った。出したアイディアを全て使うわけではないが、思いつく限りできるだけ多く出すよう促した。また、トピックが「自分の町のお気に入り」であるため、自分の考えやエピソードなど、内容が深まるようにマッピングすることも伝えた。図２はその際に使用したスライドである。赤い丸や青い丸で紹介文が終わらないように、緑の丸で囲んだような、自分がその場所を薦めるポイントを含むよう指導した。その後、自分たちの班では、どのアイディアを英作文に使うかを話し合わせた（図２）。

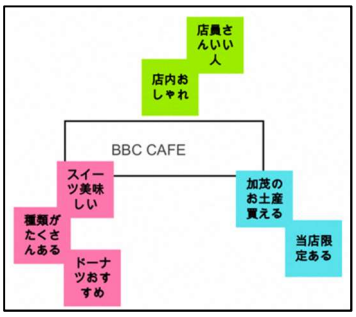

図２　生徒が作成したマッピング

③ 個人でのライティング

グループでまとめたマッピングをもとに、個人で英作文を行った。いきなりグループでライティングに入るのではなく、まずは自分で考えて英作文をすることで、うまく表現できない英文に気づかせ問題意識を持たせたり、グループでの話し合いの際に、同じ内容でも多様な英語表現ができることに気づかせたりするためである。英作文の際は、英語の語順を黒板に示し、生徒の支援を行った。

④ グループでのライティング

個人で書いたライティングを持ち寄り、「Googleドキュメント」の共同編集機能を用いて協働ライティングを行った（図３）。個人で書けなかった英文を話し合いながら、より正確な英文を書いたり、伝えたいことより伝わるような詳しい英文を書いたりするように話し合いながら活動を行った。しかし、話し合いにかける時間が短く、全ての英文を書くことはできなかった。授業の終末に、数班の英作文を全体で取り上げ、どんな内容を含むと良いかという内容面、文法や語彙などの言語面についてのフィードバックを与えた。

2	My favorite place is BBC CAFE. This is a place that we can eat delicious sweets. There are many sweets. We recommend donut. It is chewy.

図３　協働ライティングで作成した英文

(2) 研究テーマに関わって

書くことのパフォーマンステストを、定期テストの設問で行った。与えられた課題に対して、自分の考えや気持ちを英語で書くことができることを到達基準とした。

① 語数に関して

25語以上の英語で書くように指示したパフォーマンステストにおいて、生徒が書いた英作文の平均語数は約30語だった。最大で56語を書いた生徒がいる一方で、１語も書けない生徒が一人いた。

② 使用された言語面に関して

協働ライティングで生徒が使用した、「My favorite place is ○○.」を使った生徒が10人、「This is a place that we can 〜.」が11人いた。グループで学んだ表現を活用し、自分自身の英作文に取り入れることができたと考えられる。

③ 使用された内容面に関して

「自分の町のお気に入り」を紹介するのには、その場所の特徴だけでなく、なぜそこが自分のお気に入りなのか、具体的な理由やエピソードを含むことが大切だと指導した。その結果、11人の生徒は、自分がすすめる理由やエピソードについて英語で表現していた。一方で残りの生徒は、その場所の特徴を述べるだけの英作文にとどまった。

(3) 今後の課題

① 目的・場面・状況の設定について

本研修で用いた目的・場面・状況の設定は、「ＰＲ動画を見た人に、加茂市のことをより知ってもらうために「あなたのお気に入りについて紹介しよう」であった。書いた英文を使って動画を作り、イベントサイトに投稿するというオーセンティックな課題を用意したことで、生徒もより意欲的に活動に取り組んだ。相手の存在を意識できる具体的な課題設定をすることを今後も続けていくことが重要だと考えられる。

② フィードバックや中間指導について

授業中の活動では、生徒が意欲的に活動できていた。しかし、その意欲を質の高い英作文につなげていくためには教師の声掛けや見取りが大切になると感じた。例えば内容面に関しては、「内容を深めよう」とアドバイスはしたが、教師の求める「おすすめやエピソード」を書くことが内容を深めることだという認識が生徒に十分に伝わりきっていなかったように思える。「内容を深めよう」という抽象的なアドバイスを、「あなたの体験は？」や「そのお店の何味のアイスが好きなの？」のように、より具体的な言い方に変えることで、教師の求めることに対して共通認識を持つことが大切である。

③ 評価方法について

今回の「書くこと」の評価は、定期テストのライティングパートで行った。他の問題もあるため、求める語数が25語以上と短いものであった。そのため生徒の書いた英作文の平均語数は30語程度で、そのうち1語も書けない生徒もいた。より正確に「書くこと」の評価をするために、評価場面を再検討する必要がある。

＜参考・引用文献＞

大槻裕代、 長島正博、 竹本恵.『小中高の接続を意識した外国語による言語活動の工夫（京都教育センター研究紀要）』. 2019. 第8集, p23-30.

文部科学省.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』. 文部科学省.2018

山田誠志.『新学習指導要領に向けて中学校の授業のあり方と果たすべき役割（英語情報）』. 2019. 第22巻1号. p4-9.